

## 働き方改革を動かす「働きがい」とは何か

in  
Kawasaki

新しい働き方に求められるのは「働きがい」。自分にとって働きがいとは何か？  
どうすれば手に入れられるのか？ 全国から集まった会員企業の皆様とともに考えました。

／開／催／概／要／

デジタル化が加速する時代  
「今時の働きがいとは？」

新しい働き方を追求するすべての人へ。働き方改革の課題を共有し、参加者同士で意見交換することにより、自社にあった施策を推進するヒントを見つけていただくセミナーです。

主 催：FUJITSUファミリー会 事務局

開催日時：7月20日(木) 13:30～18:30  
13:30～14:10

講演(富士通からの情報提供)

14:20～15:20 施設見学

15:30～17:10 ワークショップ

17:30～18:30 交流会

開催場所：Fujitsu Uvance Kawasaki Tower  
20F 大会議室

参加人数：22名

対 象：全国のFUJITSUファミリー会員

・人材採用や育成、働き方改革に携わる方

・コミュニケーションツールの検討・導入・運用部門の方

講 師：富士通株式会社  
シニアエバンジェリスト  
松本 国一

## 講演(サマリー)

不測のパンデミックに巻き込まれ、否応なく新しい働き方を模索してきた3年半。皆様の働き方はどのように変わったでしょうか。テレワーク、オンライン会議は当たり前になり、ハイブリッドワークに踏み出した企業もあるでしょう。しかし、そうした手段の変化は、真の改革と言えるのでしょうか。本セミナーは、すべての働く人にとって働く意義である「働きがい」の向上へ向けた、新時代の働き方改革を考えていきます。

## ビジネス環境のデジタル化

いまこの時も、世界のビジネス事情は変化し続けています。例えばグローバルサウス（アジアやアフリカなどの新興国）の躍進は、いま全世界の視線を集めています。中でも、インドやベトナムなどアジア諸国のデジタル化は目覚ましく、先進国を追い越す勢いです。一方、日本の企業、社会は、残念ながら押し寄せるデジタルの波に乗り遅れたと言わざるを得ません。

また、対話型AI（大規模学習モデル：LLM）の登場は、世界を変えるとされるほどのインパクトがありました。ChatGPTが瞬く間に世界を席卷したように、影響力は計り知れないと言えるでしょう。近い将来、対話型AIが目（カメラ）や声を持つAIスピーカーなどのデバイスに搭載されたなら？生活でも仕事においても、AIとともに生きる時代はすぐそこまで来ています。



## 「働きがい」が重要視される理由

日本の働き方改革、その現在地はというと約8割の企業が道半ばと言われています。例えば、長時間労働の問題。働き方改革関連法で残業時間の上限が設定され、一般従業員の残業時間は大幅に減りました。しかし業務が減ったわけではなく、しわ寄せは管理職のもとに。テレワークは2社に1社が導入していますが、一方でFAXや紙を使った昔ながらの仕組みも残っています。

ここで、2016年に日本政府が掲げた働き方改革の目的を振り返ってみましょう。3つの目的の背景にあるのは、労働力人口の減少に対する危機感です。

## 2016年当初の働き方改革の目的

- ①働き手を増やす:仕事をしやすくして働ける人を増やす
- ②制限をなくす:様々な条件で働けない人にも働く機会を
- ③生産性の向上:個々の生産性を高め労働力不足をカバー

このように、働き方を変えること自体は目的ではありません。働き方改革の目的は、働く人がもっと働きやすいように環境を整え、力を発揮しやすくすること。そこで焦点になるのが、本日のテーマ「働きがい」です。働きがいがないければ、働きたい人が減ってしまいます。働く人のモチベーションが下がってしまえば、効率的な働き方は実現しません。働きがいとは、働き方改革の目的であり起点なのです。



## 施設見学

Fujitsu Uvance Kawasaki Tower 26F  
F3rd X Uvance Kawasaki

富士通サテライトオフィスでは、お客様向けの会員制オフィスを提供しています。会員登録をしていただくと無料でいつでも利用することができます。ソロワークはもちろん、富士通の社員や会員同士の交流の場としてご利用ください。

ご利用方法

▶ <https://jp.fujitsu.com/family/fxukawasaki.html>



手のひら静脈認証を使った会員登録

## 講演(サマリー)

### 働き方のDXとは

デジタル・トランスフォーメーション (DX) が、単なるIT活用でないことはご存じでしょう。紙をPCに置き換えても、サーバをクラウドに移行してもDXは起きません。DXとは、「ありたい姿」をデジタルで実現することです。

身近な例として、スーパーマーケットのDXをお客様目線で見てみましょう。現在主流のPOSレジは売上管理や在庫管理、キャッシュレス決済にも連携しています。これはお店側から見ればDXかもしれませんが、お客様にとってのDXは起こっていません。そこに「レジ待ちの行列に並びたくない」お客様心理に応えるスマホレジが登場し、時短の買い物が実現。この体験の変化こそがDXです。

このDXをさらに進めていくと「Amazon Go」に行き着きます。お店に入って欲しい商品をバッグに入れて持ち帰ると精算まで終わっている。究極のDXではないですか。

当然ながら「Amazon Go」には、AI技術やカメラやセンサーが仕込まれ、堅固な決済システムが連携しています。これをあらゆるスーパーやコンビニに、そのまま導入することは現実的ではありません。お店によって費用対効果は違い、最初から完成型を求めると多額の投資、中長期の計画が必要で、企業の体力を削ってしまいます。だからこそ、スマホレジのように簡単なお店から体験を変えることがDXの入り口になります。ひとつ変わっ

たら、次々と体験を変えていくことでDXは進展していきます。

働き方改革においても、手の届くところからDXへシフトしていくことが重要です。手段は様々ありますが、1つの例として、富士通では「Work Life Shift」という新しい働き方を実践しています。様々な施策を展開し、その成果をソリューション・サービスとしてご提供していますので、ぜひWebサイトをご参照ください。

<https://www.fujitsu.com/jp/innovation/worklifeshift/>

### いま必要とされる視点変え

デジタル技術は日進月歩。それに伴って、生活も仕事のやり方もアップデートされていきます。私たちが働く現場も、変わらなければ事業継続が難しい時代を迎え、視点をITなどの手段から、働きがい、ありたい姿へと変えることが求められています。まず皆様自身が「どうすれば前向きに仕事ができるか」を明確化し、そのうえで、目的を達成するためにどんな手段を使うのかを考えてみてください。



### ワークショップ

講演、施設見学に続いて、自分にとっての働きがいを整理するため、以下のようにワークショップを行いました。

#### 1 インスピレーションカードを選ぶ

500種類のインスピレーションカード<sup>\*1</sup>の中から、「これができたら働きがい上がりそう」と思うカードを、直感で3枚選びます。

#### 2 選んだ理由を深掘りする(グループワーク)

直感で選んだとはいえ、潜在的な理由があるはず。参加者は3人ごとのグループに分かれ、「話す」「聞く」「メモする」役割をローテーションしながら、選択の理由を掘り下げしていきます。これは「なぜなぜ分析<sup>\*2</sup>」を応用したものです。

#### 3 深掘りした「思い」を整理する(個人ワーク)

分析シートにメモ(付箋)を「自分/仕事/職場環境/社風/業界・社会」に分類して貼り、俯瞰したところで自分の働きがいのポイントをまとめます。

<sup>\*1</sup> 富士通のデザインセンターが自分たちでワークショップをしながら、蓄積したアイデアをイラスト化したもの。

<sup>\*2</sup> トヨタ生産方式の一環として、「なぜ」を使って問題の真因を把握する分析方法。「なぜ」という問いを繰り返すことで本当の原因を探っていく。

### 講師からひとこと

「なぜなぜ」を突き詰めていくと、思ってもみなかった深層心理が浮き彫りになってきます。このメソッドは普段の仕事の中でも活用できますので、自分自身の思い、周囲の人たちの思いを引き出してみてください。その中で、古い価値観や仕事のやり方へのこだわりが見えてきたら、そこが変革の突破口になります。